

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2007～2008年度 国際ロータリー ウィルフレッドJ.ウィルキンソン会長テーマ

ROTARY SHARES ロータリーは分かちあいの心

創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyac@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 橋本 恭典  
幹事 鈴木 文三郎  
会報委員長 酒部 正博

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2563回例会プログラム

[当年度 = 5回目; 当月 = 1週目]

2007年(平成19年)8月6日(月)

## 歓迎!! 江崎 柳節ガバナー公式訪問

## 1. 例会 ……〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘 ……〈会長〉  
3. 開会宣言  
4. 国歌斉唱  
5. ロータリーソング斉唱 …… 奉仕の理想  
6. 歓迎の辞及びゲスト並びにビジター紹介  
7. 食事
- 12:45 8. 会長挨拶並びに会長報告  
9. お祝い  
(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)  
10. 幹事報告  
11. 出席報告  
12. 委員会報告  
13. ニコニコボックス報告  
14. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(8/13) ……休会  
(クラブ定款第5条第1節(c))  
(8/20) ……クラブフォーラム(出席委員会)  
通年皆出席および前年度皆出席表彰  
クラブフォーラム(会員増強委員会)

## 13:00 15. 卓話

国際ロータリー第2760地区  
ガバナー 江崎 柳節 様

16. 謝辞  
17. 点鐘 ……〈会長〉  
13:30 18. 閉会宣言  
記念写真の撮影  
13:45 19. 散会

江崎 柳節ガバナー公式訪問  
会長・幹事懇談会会場 刈谷商工会議所 会頭室  
時間 11:00～12:00

## ビジター

加藤 量平 様 (知立 RC)  
杉原 透恭 様 (知立 RC)

## ゲスト

国際ロータリー第2760地区ガバナー  
江崎 柳節 様 (小牧 RC)  
国際ロータリー第2760地区幹事  
河村 嘉男 様 (小牧 RC)

## 出席

会員総数 93名 出席免除 21名  
出席義務 72名 欠席 13名 出席率 81.94%  
前々回(7/23)の修正出席率 100%

## 会長報告

- 1) 盛田豊一直前会長と鈴木豊直前幹事にロータリー財団よりベネファクターの認証状とピンが届きましたので贈呈させていただきます。  
2) 酒部正博会員がオーストラリアのサウスバンク・ロータリークラブでメーキャップされ、ガバナー交換をして来て下さったので皆様にご披露いたします。

- 3) 霜出倶弘会員がメーカーキャップされ、中津平成 RC とバナー交換して来ていただきましたのでご披露いたします。
- 4) 7月31日に開催された社会福祉法人刈谷市社会福祉協議会の理事会に出席して参りました。
- 5) 8月3日に開催された暴力追放市民会議の理事会並びに総会に鈴木幹事に代理出席していただきました。
- 6) 本日の食事はガバナーのご意向で100万ドルの食事となっています。通常の食費との差額はロータリー財団に寄付をさせていただきます。

## 幹事報告

- 1) 本日例会終了後、江崎ガバナーおよび河村地区幹事を囲んで記念写真の撮影を致します。よろしくお願ひ致します。
- 2) 次週は盆休みで休会となります。8月11日から16日までの事務局の夏期休暇期間中の連絡は、私・鈴木文三郎幹事の携帯電話（会員名簿の表紙裏に記載）へお願ひ致します。
- 3) 刈谷 RC の会員証をメールボックスの中に入れてさせていただきましたのでご確認下さい。前期会費の納入、ありがとうございます。

## 委員会報告

### ●ロータリー財団委員会

ロータリー財団年次寄付に本年度既に18名の方に参加して頂いております。年間皆出席表彰を利用されますと8000円で年100ドルを達成できますのでより多くの方のご参加をお願ひ致します。

### ●親睦活動委員会

観劇家族例会を10月15日(月)、御園座の吉例顔見世にて開催いたします。100席確保しておりますので、ご家族揃って出席のほど、よろしくお願ひ致します。

## 会長あいさつ

橋本 恭典



本日は、RI 第2760地区江崎柳節ガバナー、河村嘉男地区幹事をお迎えしてのガバナー公式訪問であります。公式訪問5回目という早い時期に、刈谷クラブを選んで頂きご指導仰げますこと、光栄に思いますとともに、今後のクラブ運営の礎になるものと存じております。

これまでに江崎ガバナーからは3月に開催されたペッツ、5月連休最後の6日に催された地区協議会、先月のRC財団セミナー等で熱心にご指導頂きました。又、本日は11時から私と石川副会長、鈴木幹事と次年度会長幹事に丁寧なご指導とご助言を賜りました。

本年度のRI ウィルキンソン会長のテーマは「ロータリーは分かち合いの心」です。自分自身に不要となったものを施すことではなく、「分かち合いとは人のためにわれを忘れて自らを捧げること」と申されてお見えのこと、江崎ガバナーを通してペッツとか地区協議会の時に教わりました。

ガバナーからは後ほどの卓話でその真髄となるお話が伺えることと存じます。

さて今月は会員増強・拡大月間です。世界的に会員が減少しているロータリーに新入会員を勧誘するには、ロータリーの魅力やロータリーに入るメリットなどを明確に説明できなければなりません。

ロータリーに入るメリットとはなにかを相当古いのですが1923-24年 RI 会長ガイ・ガンディカー氏の言葉を紹介します。

### 「ロータリーに入るといいことがある」

- 1) 人生で、是非とも持たねばならない知己が得られる。
- 2) 純粋で健全な親睦というものがどんなに良いものかを知ることが出来る。
- 3) どうすれば仕事が成功し、問題解決ができるかについて、啓発を受けることが出来る。
- 4) 効率の高い経営方法とは何かについて、知らず知らずのうちに教育が受けられる。
- 5) 多くの自分の知らない情報が得られ、先見の明を授けられることができる。
- 6) 自己の思想の限界を自覚し、もって転機を得ることができる。
- 7) 知己を広め、自分を他に理解してもらう機会が与えられ、そのことが自分の企業に対する信頼を呼ぶことにつながり、その結果として企業の利益となる。
- 8) 各自が社会の指導者となるだけの訓練がうけられる。
- 9) 多くの会員の中で磨かれて“自分を高める”という特性を持っている。

以上、このような具体的な項目を示すことで、ある程度理解を得られると考えられます。もし私が会員でなくて、こんなによい事ばかり聞いたのであれば、即刻入会のお願ひをしたいと思います。会員増強委員会を中心に会員各位が積極的に行動され、刈谷クラブの仲間が多くなり、よりいっそう楽しいクラブになることにつながればと願ってやみません。よろしくお願ひ申し上げまして挨拶とします。

## お祝い

8月の会員の誕生日…小谷彦蔵、加藤英二、井元良彦、今村順、市川裕大、鈴木文三郎、小林雅紀会員。

配偶者の誕生日…小林久美子(祥浩)、岡本寛子(戡紘)、野村治子(紀代彦)様。

8月度入会記念日…御友重孝、磯村達男、木戸勝美、鈴木辰男、津田鎮輔会員。

## カバナー 江崎 柳節 様



ご紹介いただきました江崎です。所属クラブは小牧ロータリークラブです。この名誉と伝統ある刈谷ロータリークラブは誠に立派なクラブで、今94名とっておりますが、6月末でのロータリー財団への寄与率が一人155ドルと、ロータリアンの毎年一人100ドル出そうという目標を、はるかに越えています。総額ではわが2760地区の中で上から5番目にあたり、大変な寄付をいただき誠にありがとうございます。

プロジェクトでも、刈谷ロータリークラブは青少年交換も盛んですし、WCS（世界社会奉仕）では、フィリピンのロータリークラブの人たちを助け、緑の環境を作っていくために、大変ご苦労いただいております。こういう有益な世界に向けての社会奉仕は、ぜひロータリー財団に申請していただき、マッチング・グラントということで、こちらが用意した金額、あるいは先方も少しは用意していただいておりますが、それを合わせた同額くらいをロータリー財団が助成してくれますので、ぜひ、これからもご検討いただけるとありがたいと思います。

プロジェクトでも、刈谷ロータリークラブは青少年交換も盛んですし、WCS（世界社会奉仕）では、フィリピンのロータリークラブの人たちを助け、緑の環境を作っていくために、大変ご苦労いただいております。こういう有益な世界に向けての社会奉仕は、ぜひロータリー財団に申請していただき、マッチング・グラントということで、こちらが用意した金額、あるいは先方も少しは用意していただいておりますが、それを合わせた同額くらいをロータリー財団が助成してくれますので、ぜひ、これからもご検討いただけるとありがたいと思います。

GSE（研究グループ交換）では、今年度の交換先はフランスです。派遣メンバー4人の候補の内お一人は刈谷ロータリークラブから推薦いただきありがとうございました。たった1ヶ月ですが、その方の持つ専門性を向こうのシステムと比べたり、向こうで紹介したり、あるいは国際交流の中で学べますので、来年からも、ぜひ交換できる若い専門家を出していただきたいと思います。

GSEの受け入れは、11月17、18日にフランスから参ります。こちらでは、自動車産業、工業が盛んですから、ぜひ日本の産業の素晴らしさを見せていただけるとありがたいですし、向こうが持って来る固有の専門性もありますので、ぜひお願いしたいと思います。奉仕プロジェクトは、クラブによってはなかなかうまくいかないこともありまして、この点、刈谷ロータリークラブは誠にりっぱで模範的なクラブで、私どもガバナーとして、ただただ驚嘆するばかりです。

もう一つはクラブの管理運営についてです。ロータリーの4大奉仕の3つは外向きの奉仕でして、職業奉仕も国際奉仕も社会奉仕も、ロータリークラブが外に向かってどれくらいのことをやって差し上げられるかということですが、クラブ奉仕こそが、自分たちの自己研鑽のための奉仕であり、これがうまくいってない、あるいはクラブの維持のため、小委員会のそれぞれの活動に終わってしまうようなクラブが普通です。

ですが刈谷ロータリークラブは管理運営面でも非常に模範的でした。私どもが年度初めに各クラブの会長さんにお出ししているアンケート、これはクラブリーダーシッププランのちょっと形を変えたアンケートですが、

それがすべて山盛りに合格といいましょうか、やられておりますので、改めてこのクラブで無理に検討する必要はなかろうと思います。

ただ、これはお願いですが、RIからの情報は、クラブリーダーシッププランそのもので来ています。橋本会長さんに前もってお送りしたクラブ会長要覧も、よく読みますとクラブリーダーシッププランの別例です。今では世界中がクラブリーダーシッププランの良さというか、実態を了解した上で進んでいますので、それを良く理解していないと、だんだん年と共に情報が少しずつ外れて分からなくなるという恐れがないとは言えません。

従いまして、クラブ運営管理の面、それから奉仕プロジェクトの面、もう一つはロータリー財団に寄与しよう、それから増強をきちっとやろうということ、もう一つは広報です。これら5項目を念頭に置いて、次の年次に引き継ぐ時にチェックはあった方がいいなと考えています。

そういうわけで、クラブリーダーシッププランというのは、採用せよとかRIのお仕着せとかではありませんので、その方向性が曖昧になった時にチェックし直していただきたいという程度のものであります。

今年のRI会長のウィルキンソンさんは、カナダの公認会計士で実に立派な方です。6日間、国際協議会というところでガバナーの勉強をさせていただきました。いつも上手に詩を取り入れて、私どもに感銘を与えてくださる人で、そのウィルキンソンさんのRIのテーマは「ロータリーは分かち合いの心、Rotary Shares」でした。何を分かち合うかということ、それは一つ、「愛」とウィルキンソンさんは言っておられました。

愛を分かち合うという行為は、親切心だと。親切心はその行動の発露であるから、常に人に向かって親切であることに尽きると。そして、自分の要らなくなったものを分かち与えるのではなくて、自らを忘れて他人のために自らを捧げようということを「分かち合う」ことだ、と言っておられました。

現にロータリーは、外からある見識を持った人から見ますと、今まで人類の有史以来、人類文化史上、こんな素晴らしい志を持った団体はない、これは現代における唯一の奇跡だ、と言っている人があるわけですが、私どもはそういうことを知らず知らずのうちにやっています、ということだと思います。

ロータリーのすごさは、毎日いろいろ努力しているわけではないのですが、例えばポリオのプロジェクトにしてみますと、10年間で約10億人の子どもにポリオのワクチンを口の中に2滴入れてあげるだけで、その子どもは一生脊髄性小児麻痺にかからないわけです。従って、推計学的に見ると700万人の子どもが歩けなくなるのを助けたことになり、そのうちの200万人は命を奪われる怖い合併症まで進むことが分かっていますので、その200万人の命も助けているわけです。

そうしたプロジェクトですと、世の中にどんな風に進んできているか直接的には分からないわけですが、目に見える奉仕もたくさんあります。刈谷ロータリークラブもフィリピンのロータリークラブでは、日本庭園か何

かで緑の環境を作っていただくようにしていますが、向こうの人たちがそれを見ていかに和むか、幸せになるか、ということも現に進みつつあります。普通の人間がロータリーという舞台にいただけで、その人一人ずつではできない様なすごい事ができてしまう。これをもって「ロータリーマジック」だとウィルキンソンさんは言っておられます。

確かにこのクラブには、それぞれ職業が違った方たちが、この刈谷という所の代表的な職業の横断面がずっと開かれており、どんな相談でも恐らくこの中で解決してしまう。そういう優れたクラブが外に向かってすごい事をやっているわけですから、ぜひ我々も自信を持ってさらに進んでいくべきだと思います。

地区の方針は「違いをもたらそう」ということにいたします。違いをもたらそうというのは、どこへ行ってもクラブというのはそれぞれ独特のカラーがあり独特のイデオロギーがあるわけですが、実は今、良い事をしようという団体はロータリーだけではなく、本当に優良な奉仕団体が一杯あります。そんな中、ロータリアンというのがどういうスタンスを持った集まりかが、世の中では分かっていただけなくなりつつあります。

本当は、ロータリアンというのはその地区で最高の、いろんな業界のそのまた代表の人が選ばれてくるわけです。実業界の上層部、それからもう一つの母体である専門職業の中から選ばれた代表的なリーダーが選ばれてくる、その人たちがこの会場で週1回、奉仕の理念を会得するまで自己研鑽するわけですから、これは普通の奉仕団体とか寄付団体とは違う。ロータリアンが自らきちっとした了解をしておくべきだと思うわけです。そうして、常に違いをもたらすことを心がけたいと思っています。

もう一つ、このクラブの毎年の年次計画書でも、いくつかの委員会によって今年は例年と違いを持たせようと書いていただいております、大変うれしいことですが、ともするとマンネリになる可能性があるわけです。それが証拠に、どのロータリークラブも10何年あるいは20年前のRIのクラブ細則を採用されていますが、以降、クラブ独自でクラブ細則を変えたところはそれほど多くないのです。

こういう優れた会の運営において、細則がほとんど変わっていないことはあってはならないことですし、刈谷ロータリークラブではそうしたことは無いと思いますが、先ほど申し上げたクラブリーダーシッププランの5つの項目だけでもチェックしていただけると、思いがけない発見が出てくるかもしれませんので、記憶いただけるとありがたいと思います。

さて、例会の冒頭で歌った「奉仕の理想」の中に「望むは世界の久遠の平和」とあります。私たちは本当に久遠の平和を望んで、そのとおりやっているのでしょうか。私たちは現に世界の人たちに向かって、平和を祈った事業をたくさんしております。GSEも青少年交換もそうです。それからロータリー財団奨学生、今は財団奨学生と言わずに親善奨学生と言ひまして、自分のためだけに勉強しなくてもいいから、日本のことをどんどん語って

来て、そして日本に帰ったら向こうの成果を日本の皆さんに語ってください、というものです。

刈谷ロータリークラブでは交換留学生はかなり出されていると思いますが、これだけはロータリーの家族、ご子息、お孫さんが許されておりますし、1年間外国へ行って向こうの勉強や体験をしてくるわけですが、それと同時に向こうからも1年間、その国から来た高校生をお預かりするわけです。これが毎年この地区に一人ずつできますと、10年20年経つと素晴らしい人材をこの土地に根付かせることになります。

ロータリーにおける奨学制度あるいは交換制度にはテーマが一つありまして、その人たちが中からも外からも日本を支える人物になるということです。アメリカが世界に冠たる国であり続けるのは、日本に比べてかなりのお金を使って奨学生を受け入れており、その人たちがそれぞれ国に帰ると、必ず外からお世話になった国を支えてくれるということです。

数年前に日韓共同のワールドカップサッカーがありました。史上初めて2カ国でやるわけで、成功するかどうか大変日本でも悩んだわけです。あの時、チェ・サンヨンさんという駐日韓国大使は、日本に以前来ていた米山奨学生だったのです。東京大学で勉強された方です。あの方の存在によって2カ国によるワールドカップサッカー開催が成功した、というのがほとんどの関係者の認識です。

ロータリーはいろいろな世界に向け、久遠の平和に向かって今動きつつあります。第二次世界大戦時の1945年、サンフランシスコで各国のロータリアンが集まる国際会議が開かれ、国連という組織を作ろうということが決議されたわけです。ユニセフなどもロータリーが主導して作ったと言われています。

今はそういう国際的な理解を深めようという交換制度、あるいはGSEだとかWCSで世界を助けてあげようということで進んで来ていますが、3年くらい前から「ロータリー世界平和フェロー」という制度ができました。これは紛争のある国へ、ロータリーで育てた専門的に紛争や戦争を解決できる人を従事させようというもので、日本からも立派な人が出ております。岸谷美穂さんという女性が単身でイラクへ行っており、業績が非常に著名でしたので世界的な中曾根賞をもらわれました。

そういう世界平和フェローを当地区からも一人出したということで、今選考中です。国際機関に3年勤めて十分経験のある人でないと無理なので、日本では年間3、4人も出ませんが、どうやらこの地区でも一人見つかって、手続きをなるべく早くしたいと思っています。

今、世界の紛争はイデオロギー戦争、はっきり申しますとキリスト圏とイスラム圏の正義のせめぎ合いでして、教典のためには人を殺しても構わないという一派もありますし、何が何でも人間の自由と生命を守ろうということとのせめぎ合いで、なかなか政治で解決しない問題が続いています。

そういう世界に向けて平和を指向する動きがかなり出て来ているわけで、私どももいろいろな地区で平和につ

いて議論し、活動しつつあります。ロータリーがそういう方向に向かいつつあるということをお話し申し上げまして、本日の卓話とさせていただきます。どうもありがとうございました。

